

第4学年A組 国語科学習指導案

授業者 鎌田 雅子
研究協力者 阿部 昇, 成田 雅樹
教材分析協力者 羽田 朝子

1 単元名 想像をふくらませて読もう ～白いぼうし～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

「春のうた」の詩の学習では、「普通だったらカエルはケロケロと鳴くの、ケル
ルンクックと鳴くのはなぜだろうか」という問いかけから、弾むよな後の学習場
ぶりの春を喜ぶ力エという考え方を結び付けて読むことが見られ、言葉への着
「普通だったら」という考へ方と向き合おう姿がうかがえる。その言葉への着
目の仕方の一つとして有効であると感じていることがうかがえる。言葉への着
一方、一つの可能性として考へて出し合い、吟味する学び方には不慣れである。
読みと読みとを関係付けて思考し、最適な解釈や新たな解釈を見いだす学びとなる。
めには、発表するだけでなく、一人一人が自ら考へる表現しながら比較、吟味する
「対話」が不可欠である。話し合いで読み深めるとは、発表と「対話」の違
「対話」の違いを考へ始めていく子どもたちである。

(2) 単元について

本単元では、登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を押
さえ、それらの人物像を読むという資質・能力を高めることを目指す。クライマックス
の出来事と主人公の人物像と関係付けて読むことで、俯瞰した読み方を無理なく引き
出すことができ、松井さんならではの寄って描かれる初夏の色彩豊かな街中の情景描
写にも、異世界招かれの松井さんには異世界の住人に選ばれる素質
がある。相手への思いを添い、相手が行動を肯定的に捉える松井さんの人
柄を作品全体から読み取る楽しさを味わうことができる教材である。
最後まで主人公の不思議な出来事の中にいることにはつきりとは気付かない本教
材をファンタジー作品として捉え、物語の世界を想像するには、確かな読み力が必
要な関係性を導く読み方に触れる機会として、山ねこのおこわり」を読む活動に
を単元で導入し、位置づけられる。主人公の山ねこが、正体を現したり人取ること
戻ったりする松井さんの人柄も、「白いぼうし」に比べて格段につきやすい教材である。
の学習内容や学習方法を教材を越えて活用するよさを実感したり、物語を想像して読
むとはどういふことなのか考へたりする姿を期待し、本単元を設定した。

(3) 指導について

本単元で育む資質・能力を高めるために、登場人物の普通とは違う言動に着目し、
クライマックスで起きる出来事の意味を主人公の人物像と関係付けて考える「見方・考
え方」を単元を通して働かせる。
クライマックスに描かれる「おどるよう飛んでいるちょうをぼんやりながめる」
松井さん。まるでちょうがおどっているようだと感じたのは松井さんであり、寄り添
うことのできる相手がちょうにまで及ぶことに気付かせたい。そのために、おふくろ、
男の子、女の子など複数の人物に対する松井さんの言動から人柄を考へる活動を設定
する。それによって、松井さんの人柄がより明確になり、ちょうの声が聞こえた出来
事とおこわり」を読む活動に導く。また、同じシリーズ作品である「山ねこ、おこ
おこわり」を読む活動に設定すること、松井さんらしさを感じながら本教
材も読む子どもたちの姿が期待できる。物語の設定が単純明快な「山ねこ、おこ
を先に読むことにより、ファンタジー作品の読み方を確かめる場にもなる。
人柄とクライマックスを関係付けて読む時間には「松井さんがちょうを助けてお礼
を言われる物語」という、多くの子どものから出されることが予想される初発の読みを
揺さぶる。ちょうを助けようと思っただけではないという読みを確かめること
ができたとき、ちょうの声が聞こえたり理由を他に見いだす必然性が生まれる。「対話」
を通して、これまでの読みとつないで、互いの読みを吟味したりすることができる
ように、機を捉えて教師が個の発言を全体に問い返していく。読みを修正したり更新
したりしながら、相手が目の前にいないに関わらず、誰であつても心に寄り添う
ことのできる優れた感性が、異世界の住人ですら心を許してしまう松井さん
の人柄であることを見いだしていく過程を大切にしたい。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 色彩を表す言葉やオノマトペ、比喩表現が、温かく幻想的な物語の印象を生み出し
ていることを理解する。 (C-57・58)
- (2) 中心人物の人物像とクライマックスを関係付け、叙述を基に想像して読むことができ
る。 (C-39・40・42・45)
- (3) 友達と自分の考えを比較しながら、進んでよりよい読みを見いだそうとする。 (C-65)

4 単元の構想（総時数11時間）※「見方・考え方」を働かせた学習活動

出来事に気をつけて読もう ～もうすぐ雨に～（3年）

◎本単元で育む主な資質・能力 登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を押さえ、それらの人物像を読む。 (C-40)	時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
	1・2	(1) 設定や構成を確かめながら「山ねこ、おことわり」を読む。	・ファンタジーという文種を理解することができるように、既習の物語で似ている作品は何か考える場を設定する。	・ファンタジーとは何か考えながら、「山ねこおことわり」を読んでいる。 〈C-39〉
	3	(2) 「山ねこ、おことわり」で松井さんが「また、いつでもどうぞ」と言った理由について話し合う。	・松井さんの人柄と言動を関係付けて読むことができるように、人柄に関する発言を取り上げて、「松井さんらしさ」を感じられる場面が他にもないか投げかける。	・主人公の人柄とクライマックスを関係付けて読んでいる。 〈C-40〉
	4	(3) 「白いぼうし」を読み、初発の感想を交流する。 ・この物語も、不思議な出来事が起こる話だ。	・学習問題につながる言葉への引っ掛かりを意識することができるように、疑問に思ったことを感想に必ず書くよう、指示する。	・進んで感想を伝え合い、初発の感想をもつことができる。 〈C-65〉
	5・6	(4) 物語を通読してクライマックスはどこか話し合い、学習計画を立てる。	・子どもの問いで学習を進めていくことができるように、物語の大まかな構成を捉えた上で、学習問題を話し合っていく場を設定する。	・物語の構成を理解し、クライマックスとなる場面とその理由を考えている。 〈C-42〉
		学習問題 なぜ、松井さんには小さな小さな声が聞こえたのだろうか。		・クライマックスを意識し、書かれてあることをもとに問いを考えている。 〈C-45〉
	7・8	(5) 「始め」の部分を読み、松井さんの人柄について考える。 ・松井さんは「たぶん、この人はこう思うだろう」と相手の気持ちを考えられる人だ。 ・松井さんは相手と一緒にがっかりしたり、喜んだりできる人。	・ぼうしの持ち主の思いを推し量る松井さんの考え方に気付くことができるように、おまわりさんが松井さんをじろじろ見た理由を話し合う場を設定する。 ・男の子に対する考え方を松井さんの人柄と捉えることができるように、松井さんの優しさを感じられる部分を話し合う場を設定する。	・松井さんの複数の言動を根拠に、松井さんの人柄を捉えている。 〈C-40〉 ・オノマトペや比喩表現の効果と松井さんの人柄を関係付けて読んでいる。 〈C-57・58〉
	9	(6) 女の子の正体について話し合う。 ・女の子の言葉や行動から考えると、やっぱり変身したちょうだ。	・再度接近する男の子と、慌てる女の子を関係付けて考えることができるように、女の子が「早く行ってちょうだい」と言った理由を話し合う場を設定する。	・根拠となる叙述とそこから考えたことを関係付けながら、女の子の正体について読んでいる。 〈C-40〉
	10本時	(7) なぜ、松井さんには、ちょうの声が聞こえたのか話し合う。	・相手に寄り添う松井さんの人柄を、クライマックスからも見つけることができるように、「普通だったら・・・」という見方でクライマックスを読むよう促す。	・松井さんの言動を根拠に、クライマックスで起こる出来事と主人公の人柄を関係付けて読んでいる。 〈C-40〉
	11	(8) 本単元の学びを振り返る。	・学びをつなげる意識を高めるために、物語の読み方と読み取った内容と二つの視点から振り返るよう指示する。	・どんな言葉に着目して何を読むことができたか、物語の読み方に触れて学習を振り返っている。 〈C-40〉

◎本単元の学習活動では働かせる主な「見方・考え方」
「見方・考え方」で起きる出来事の意味を主人公の人柄と関係付けて考える。

物語の一番伝えたいことと、主人公の変化とを関係付けて読もう ～プラタナスの木～

5 本時の実際 (10/11)

(1) ねらい 松井さんにちょうの声が聞こえた理由を話し合う活動を通して、登場人物の言動と不思議な出来事のつながりに着目し、松井さんの人柄を読み取ることができ
(C-40)

(2) 展開

○省察を通して自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
2分	① 学習問題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的指名をしたり読みの変容を見取ったりできるように、前時の最後に学習問題に対する考えを書く場を設定しておく。
36分	<p>学習問題</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">なぜ、松井さんには小さな小さな声が聞こえたのだろうか。</p> <p>② 松井さんにちょうの声が聞こえた理由を話し合う。</p> <p>A ちょうが声を聞かせた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お礼を言った。 ・声を聞かせることがお礼代わり。 <p>B 松井さんに理由がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回女の子の姿のちょうと話をしていたから。 ・不思議なことに巻き込まれやすい人だから。 ・自分(ちょう)の気持ちを分かってくれたから。 <p>女の子と松井さんを読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早く行ってちょうだい」と言ったら松井さんが慌ててアクセルを踏んでくれた。自分の気持ちを分かってくれたと思ったのかもしれない。 ・ぼうしを拾う場面と同じで、ちょうを助けようとして行動したわけではない。でも、結果的に助かってうれしかった。 ・小さい子が勝手にタクシーに乗っていたら、普通だったら違う反応をすするはず。 ・四角い建物という言い方や行き先がはっきり分からないなど、女の子はちょっと怪しい。それでもお客さんとして接していて優しいと思う。 <p>クライマックスの描写を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おどるように飛んでいるちょう」という部分から、松井さんにはちょうたちがおどっているように見えた」と読める。ちょうの気持ちにまで寄り添っている。 ・これまでも相手の気持ちに寄り添える松井さんが書いてあったけれど、ちょうの気持ちにまで寄り添えるなんてすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、ファンタジーという文種やクライマックスへの伏線から、最後に聞こえた声はちょうの声であると考えている。ちょうの声が聞こえた松井さんという前提で本時の学習も進めていく。 ・「ちょうを助けた松井さんだから」という読みを整理することができるように、着目している場面を確認する。ぼうしを拾った行動は男の子のことを思っていることであるという読みは、前時までには押さえておく。 ・個の学びを保障するために、女の子に対する松井さんの接し方を読むことを確かめた後で、女の子がうれしかった松井さんの言動を、教科書に印を付けながら探す時間を設ける。 ○松井さんの人柄をより深く捉えていくことができるように、「感謝の気持ちを伝えたくて」という発言を取り上げて、松井さんの女の子に対する言動を読む。そこから感じられる人柄を話し合う場を設定し、相手の気持ちを肯定的に捉えたり、相手の思いを推し量ろうとしたりする松井さんの人柄が女の子との関わり方からも読めることをに気付かせていく。 ・気になる叙述を根拠に人柄を考えることができるように、「普通だったら・・・」という考え方を使っている発言を捉えて賞揚する。 ○不思議な出来事に巻き込まれることと、相手の思いに寄り添いたいと思う松井さんの人柄を関係付けることができるように、クライマックスにも、他の場面で見られた松井さんの人柄が分かる叙述はないか問う。
7分	③ 本時で読み取った松井さんの人柄をノートにまとめ、学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうの声が聞こえたことと松井さんの人柄を関係付けて振り返りを書くことができるように、クライマックスの出来事に関係ある松井さんの人柄は何だと思いか投げかける。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">人物描写を根拠に、ちょうの心にも寄り添う松井さんの人柄を読み取っている。 (C-40) (発言・ノート)</p>